

平成 22 年度大気中の放射性ヨウ素測定結果

調査地点:横須賀港

採取地点	測定結果(mBq / m ³)			
	第 1・四半期	第 2・四半期	第 3・四半期	第 4・四半期※
小海局	* *	* *	* *	31000 ± 20

注) ヨウ素サンプラに、ろ紙(HE-40T)と活性炭カートリッジ(CHC-50)を装着して大気中の放射性ヨウ素を 24 時間連続して捕集し、ゲルマニウム半導体検出器によりヨウ素-131 の放射能濃度を測定した。

(第 4・四半期のみ、ヨウ素サンプラの不良により、採取時間が 18 時間 59 分となった。)

分析値が標準偏差の3倍を超えるものについては数値を記載し、それ以外のものについては* *で示した。

測定結果は試料採取終了時に補正した。

※ その他の放射性核種については別表に示した。第 4・四半期は、採取日における各地のモニタリングポストの空間放射線量が原子力艦停泊地点からの距離に関係なく同様の挙動を示していることより、原子力艦ではなく福島第一原子力発電所事故の影響を受けたものと考えられる。

平成 22 年度大気中の放射性核種測定結果

調査地点：横須賀港（第 4・四半期）

放射性ヨウ素以外に検出された放射性核種は下表のとおりである。

採取地点	検出核種 (mBq / m ³)																				
	Cs-134			Cs-136			Cs-137			I-132			I-133			Te-129m			Te-132		
小海局	2100	±	7	390	±	4	2600	±	7	11000	±	10	2300	±	7	2600	±	120	20000	±	10

注) ヨウ素サンプラに、ろ紙(HE-40T)と活性炭カートリッジ(CHC-50)を装着して大気中の放射性ヨウ素を 24 時間連続して捕集し、ゲルマニウム半導体検出器により放射能濃度を測定した(ヨウ素サンプラの不良により、採取時間が 18 時間 59 分となった。)

測定結果については、減衰補正を行っていない(採取日と測定開始日は同じである。)

誤差は計数誤差のみ示した。